

会長挨拶

水 土 会 の 空 気



小前隆美

昭和47年卒業
(公社)農業農村工学会 技術者継
続教育機構長
元(独)農業・食品産業技術総合研
究機構理事・農村工学研究所長

COVID-19の新規感染者数が大きく減ったかと思
うと花粉の飛散量が激増し、マスクの必要な日々
が続いておりますが、会員の皆様にはいかがお過
ごでしょうか。

3月に東京で、退官を目前にした河端先生にお会
いする機会がありました。母校の様子や役員として
のご苦労をお伺いしながら、私からはこれまで多く
の優れた人材を育成して来られたご功績について
お話ししました。ところが返ってきた言葉は、「もとも
と優秀な子達ですから。」でした。

私が在籍していた農村工学研究所(当時)に学生
君達を連れて実験に来られていたこと、学会大会
講演会に多くの学生君達を連れて来られていたこ
と、院生諸君に海外での発表や共同研究を経験さ
せておられたこと、そのために普通の教授はそこま
ではしないであろうと思われるほど学生君たちを指
導、支援しておられたことを、私は知っています。ゼ
ミにも参加させていただいて、指導ぶりを拝見した
こともありました。彼らは自信を持って社会に出て
行ったに違いありません。

河端先生が、学生君達に対して当然のことのよう
にありったけの熱意を傾注しながら、それでも自分

が何をしたとは決して言わない人物であることを、
私はよく知っています。

私がこの誌面にこのように書くことも、ご本人の意
向とは真逆の行為になっていると思います。しかし
ながら、ご退官のこの節目には、会員の皆様と共
に祝意と謝意をお伝えしたいと思います。

おめでとうございます。そして、ありがとうございます。
これからも、引き続き役員として益々ご活躍
いただきたいと思います。

この春も六甲台から私たちの仲間が新社会人と
なって全国に飛び出していきました。この会誌がお
手元に届くころには、すでに新しい事業年度が力
強く動き出していることと思います。新卒者や異動
した者は、能力があっても、度胸があっても、未経
験の社会で力を発揮するまでには様々な悩みや迷
いがあるものです。同窓の新人を身近に迎え入れ
た先輩諸氏には、年次を超えて仲間意識が共有さ
れる水 土 会 の 空 気 感 を 提 供 し て あ げ て い た だ き た
い と思 います。

それがこの会の存在意義でなければならないと、
いつも考えております。

退職にあたって



河端 俊典

神戸大学理事・副学長

長かったコロナ生活もいよいよ終息の兆し、通常の生活が戻ろうとしているところですが、水士会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？ さて、私ごとで誠に恐縮ですが、この度65歳の定年を迎えることとなり、一言ご挨拶をさせていただくこととなりました。

私は2000年12月1日付けで国家公務員として神戸大学に着任させて頂きましたが、その後2007年の国立大学法人化を経て、あっという間に22年が過ぎました。65歳という節目で、農学研究科での教育・研究活動を終えることができました。その間、多くの方に支えて頂き、なんとかこの日を迎えることができましたこと、改めて心より厚くお礼申し上げます。

私の神戸着任後の愛車(デリカ3台と現在のジムニー)のナンバーはすべて2000を付けていますし、将来に渡っても、なにかにつけて2000を使用すると思います。やはり2000年は私の人生の一つの大きな岐路であったことは疑う余地はございません。



顧みますと、2000年6月19日(月曜日)、当時の農林水産省農業工学研究所の土質研究室で交流研究員を務めていた私に、内田一徳先生からお電話を頂きました。私は即座に尾崎叡司先生ならびに三重大学の近藤武先生にお電話し、相談・確認致しましたところ、……(ここは省略させて頂きます)。その後、9月の教授会審議通過まで、色々なハプニングも多々ありましたが、12月1日(金曜日)神戸大学に42歳の新任教員として採用されることとなりました。三重大学修士課程修了のしかも当時では珍しい民間企業からの採用ということで、正直なところ途轍もない不安とプレッシャーがありました。翌週から始

まる三角測量の講義の準備もあり、色々と考えている余裕はありませんでした。学部学生時代以後20年も触れることのなかった“トランシット”を12月2日、3日の土日に製図室ロッカーから取り出して、参考書を読みながら必死で復習し、講義で学生さんの前では、さも使い慣れたかの振りをしつつ講義を進めなければなりません、冷や汗モノでした。これが懐かしい教員生活スタートの記憶です。このように、教育とは縁もゆかりもなかった者が、いきなり教壇に立ったわけですが、…… あっという間に65歳を迎えてしまいました。

この間、何をやってきたのか？あの時どうすべきであったか？ 反省点は多々あります。さらに、2021年からは農学研究科を離れたため、ご迷惑をおかけするとともに、中途半端な状態で研究室を去らねばならず、とても心残りです。申し訳なく思っております。ただ、学術的素養の高い学生さんたちのおかげで、研究大学の使命としての研究人材の育成に関しては、多少なりとも貢献できたかな？と考えております。また、優秀で器用な学生さんたちですので、農業土木以外の分野でも大活躍の話を伺うこともあり、改めて本当に神戸に来て良かったと感謝しております。

国立大学法人第4期中期目標期間中もうしばらくの間、学内におりますので、水士会の皆様におかれましては、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のご健康と水士会のご発展をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

【河端先生の経歴】

- 1980年3月 三重大学農学部農業土木学科 卒業
- 1982年3月 三重大学大学院農学研究科修士課程 修了
- 1982年4月 久保田鉄工株式会社(現 株式会社クボタ)入社
- 2000年12月 神戸大学農学部 助教授 採用
- 2012年1月 大学院 農学研究科教授
- 2016年4月 評議員, 農学研究科 副研究科長
- 2017年4月 評議員, 農学研究科長・農学部長
- 2021年4月 理事・副学長(研究・社会共創・イノベーション担当)

特別寄稿

令和4年秋の叙勲において、瑞宝小綬章を受章された梅川 治氏に寄稿をお願いしました。

最近思うことなど



梅川 治

昭和49年卒業
元九州農政局諫早湾干拓事務所長

はじめに、私事ですが昨年11月に瑞宝小綬章をいただきましたところ、早速本会誌に過分なご紹介をいただきお礼申し上げます。瑞宝章は、「国及び地方公共団体の公務または公共的な業務に長年にわたり従事した者」を対象に授与されるということです。

私の場合、昭和49年(1974年)に農林水産省に入省以来、農業農村整備事業を中心に、環境庁(当時)の湖沼水質保全対策、フィリピン国家かんがい庁での技術協力を含め16か所の職場において32年間にわたり、公務に携わってきたことから授与いただいたものと考えております。

16か所の職場それぞれで様々な思い出がありますが、まず挙げられますのは、今般、20年間にわたる裁判の結果「潮受け堤防排水門を開門せず」との最高裁判決が出た諫早湾干拓事業です。所長として3年間在職しました。着任時は9件の裁判が係争中でしたが、最も残念だったことは「工事差し止め仮処分」について敗訴し、1年間工事がストップしたことです。この間、事業推進協議会の中心メンバーである地元の商工会議所、自治会連合、婦人会、土地改良区等の皆様に力強く応援していただき職員一同大きな励みになりました。

また、フィリピン在住時はマルコス革命を目の当たりにしました。家の運転手やメイド達に出かけるのをやめるように言っても、危険を顧みず応援に出かけて行ったことが強く印象に残っております。民衆力(ピープル・パワー)の革命だったので、すね。

そのほか、苗場山麓地区の城原ダム(アースダム)や八戸平原地区の世増(よまさり)ダム(コンクリートダム)などの試験盛土や基礎処理に携われたことや坂井北部地区では農用地造成をコンサル発注せず設計・積算し現場監督まで一貫してかかわることができたことなどが挙げられます。今は、職員も少なくなり、このような機会がなくなっているのが残念です。

現在は、現場技術業務や発注者支援業務を通して農水省をはじめ国交省、水機構、県、NEXCOなどの現場支援にかかわっておりますが、特に感じますのは、土木分野のICT化の急速な進展です。設計業務はもとより工事においても、土工はもちろんコンクリートダムの盛立もITC施工される時代になっており、これらは就業人口の減少とも相まって、今後さらに進化・深化していくことは明白です。農業分野でも、スマート農業を一層推進する施策が農林水産省により強力に進められていくものと考えます。

これからの農業土木技術者は、農業土木のみならずICTに係る知見をも求められることとなりますが、従来から農業土木技術者は時代の要請に柔軟かつ的確に対応してきた経緯があり、今後もその特質が一層発揮されるものと考えております。

最後になりますが、私自身、これからも農業農村のみならず、ETVの「サイエンスゼロ」などを見ながら世の中の新しい動きに関心を持ち続けていきたいと考えております。皆様のご活躍を祈念しております。

会員からの近況報告

同期の会 『神大有馬会』

吉岡 雅之 昭和50年卒業

私は昭和50年(1975年)当時の農業生産工学科 農業土木卒の吉岡雅之と申します。

奈良県在住71歳になります。卒業して48年になりますが、今でも同期生と連絡を取合い酒を飲み交わしています。

当時の農業生産工学科は、農業機械と農業土木に分かれており、卒業同期は23名ぐらいだったと思います。

卒業後はみなさん農業機械会社、食品会社、建設会社、役所などに就職していきましたが、それ以来同期の集まりを48年続けてまいりました。毎回10名前後の人が参加しています。よくこれだけ続いたものだと感心しています。

ある時期からは、遠方の人参加も考え一泊で語り合える(飲める)ようにと場所は有馬温泉、日時は12月29日、名称は神大有馬会と決めました。まだまだみんなが元気な頃、有馬温泉の小さな旅館で神大有馬会を開催したおり、旅館の人がお鮎子がなくなりましたのでさげさせてくださいと言われたこともありました。小さな旅館でしたのでお鮎子がなくなり、お酒もなくなったのではない



前列左から2番目が筆者

かだと思います。豪傑が揃っていました。今ではみんな古希を迎えて酒量も極端に少なくなりましたが、みんなに会うと心は青春時代に瞬時に戻ります。大学の同期生はありがたいものです。

しかしここ3年はコロナにより開催できていませんが、今年ぐらいは再開できればと思っています。みんなに会う楽しみをとっておきます。

皆さんは同期の同窓会などどうされていますか。



会員からの近況報告

「総括？」



北條 勝也

昭和58年卒業
株式会社 IHIインフラシステム 主席調査役

大学を卒業したのが昭和58年(1983年)ですから、令和5年(2023年)でちょうど40年。光陰矢の如しという言葉の思い浮かべながら、昔話と近況などをお話しさせていただきます。

入学当時の学科名称は農業生産工学科といい、土の尾崎勲司/石田陽博先生、水の吉良八郎/畑武志先生が重鎮として学科を束ねておられ、まだ20代の田中勉先生が赴任してこられたのは私が3回生の時と記憶しています。

3回生というと夏の農政局事業所での実習。私の派遣先は加古川西部農業水利事業所(当時)で、そこで出会ったのが工事課長をされていた段本幸男さん(後の参議院議員)でした。測量は得意だったので与えられたミッションはそれなりにできたのですが、仲良しになった4歳ほど年上の事業所の某キャリア技官の方と下請業者とドンチャン騒ぎをやったのがいけなかった・・・公務員倫理法は無かった時代だったのですが、2人して課長の机の前に立たされ「立場をわきまえた関係」について滔々と説教されたことは今も強烈に記憶に残っています。

卒論テーマは「スリットダムによる土砂分級に関する研究」で、吉良先生が生涯をかけてまとめられた大著「ダムの堆砂とその防除」の一角を成す・・・という格好が良いのですが、炎天下、当時新設された屋外水路実験施設でひたすら土砂を流していた記憶しかないのは、今思えば情けない・・・次第です。

卒業後は研究室が過去に共同研究をしていた関係から(株)栗本鐵工所に就職し、鉄構事業部水門設計部に配属され社会人生活をスタートさせました。公務員、コンサル、ゼネコン志向が極めて強い中での結構異質な選択だったことは、水士会名簿を見てもよくわかることです。

当時は工事の兼務に関して今ほど厳格でなかったことから常に3~4件の設計担当を抱えており、大阪を起点に全国(47都道府県制覇)を飛び回っていました。

農林関係の仕事として思い出深いのは、諫早湾干拓事業の排水門(南部)と閉切ゲート(いわゆるギロチンゲート)です。



どちらも主任技術者を務めたのですが、20年以上経った今も続く報道などを見るたびに、閉切ゲートの真横で無邪気に水を被っていたこと(1997年)を思い出してしまい複雑な気持ちになります。

バブルを跨いだ社会資本整備の上げ潮が終わったのが2000年代初頭。その後、公正取引委員会の調査が入るなどして業界は一気に縮小し、三菱重工、川崎重工、NKKといった大手重工業メーカーが水門事業から撤退していきました。そんな中、似たような状況にあった橋梁事業との抱き合わせで生き残りをかけて生まれたのが、現在勤めている(株)IHIインフラシステム(2009年設立)です。新会社では第一線設計としての仕事からは離れ、プロジェクト管理、品質保証、内部監査といった道を渡り歩いたのち監査役に就任。昨年度に退任した後は、ご意見番として時間の浪費(?)をしている毎日です。

新会社では、モノに直接かかわることがなかった半面、橋梁に関わること、ガバナンスに関わることを広く浅くですが体得できたことは、それなりに良かったと思っています。

ここまでだと真面目一辺倒の会社生活と思われてしまいましたが、会社の枠の中で本業以外の事にも興味主導で色々手を出していました。

そのひとつが、河田恵昭先生(京都大学名誉教授/関西大学特別任命教授)が阪神淡路大震災の2年後に立ち上げた研究会(NPO法人:大規模災害対策研究機構)での活動です。東海・東南海・南海地震の発生に備えようとの趣旨で設立され、被災が想定される地域にメンバーが赴いての講演会、タウンミーティング、ヒアリングなどの活動を今も続けていますが、東日本大震災に遭遇するにあたり無力さを感じてしまったのが正直なところです。(2010年に三陸海岸の調査をしているんですよ..)

それともうひとつ、高橋真宙主演の映画「前田建設ファンタジー営業部(2020年公開)」のエンドロールに名前が出ていること。理由はマジンガーZを押し上げる油圧システムを考えたからで、濱田マリ演じる栗本鐵工所:堀部課長..これ私なんです。こんなことになった経緯については長くなり

ますので、同窓会の時にでもお話ししましょう。

といったような40年だったのですが、キリが良いということでこの3月で終わりにします。

しばらくは組織に属さないという寒風に身を晒してリセットし、太く短い道を探して進んでいこうと思っているところです。

水土会との縁も大切にしていきますので、今後ともよろしくお願いします。

最後に..度重なる訪問に真摯にご対応くださった増川さん(同期)をはじめとする農工研の皆様、ありがとうございました。

では。



会員からの近況報告



宮崎 雅夫

昭和62年卒業
参議院議員

水土会の会員の皆さん、こんにちは。昭和62年卒業、参議院議員の宮崎雅夫です。

まずは、河端先生の定年ご退官にお祝いと感謝の意を表します。先生の永年にわたる熱心な研究活動と人材育成は多大なる功績です。退官後も神戸大学の役員として運営に携われるとのこと、益々のご活躍をご祈念申し上げます。

さて、私こと、皆さんの温かいご支援をいただき国政で活動を始めて早3年が経過しました。昨年8月まで農林水産大臣政務官を務め、お陰さまで職責を果たすことができましたと考えています。また、3月27日には、参議院予算委員会で岸田総理等に対して初めての質疑も行うことができ、NHKの中継でテレビ越しに応援いただいた方もおられると思います。今後これらの経験も活かし、ご期待に応えられるよう活動を続けていきたいと思っておりますので、引き続きのご指導、ご鞭撻をお願いします。

今年1月に大学の先生方のご理解をいただき、母校の農業工学系の3年生の皆さんを中心に座談会を開催いただきました。私から、1時間程度、現在の我が国の農業農村の現状や土地改良の役割などについてお話をした後、意見交換しました。農水省在職中には学生の皆さんに農水省への就職の関係で話をさせていただいたことはありましたが、私にとって学生の皆さんとのこのような機会は他大学を含めて初めてのことでした。学生の皆さんからも多くの質問や意見があり、私にとっては大変有意義なものとなりました。またこのような機会が持てればと思っています。

現在、農政は大きな転換点にさしかかっています。1999年に制定された「農政の憲法」とも言われる「食料・農業・農村基本法」について、制定後の

国際情勢や自然環境の変化を踏まえて、自民党、政府でもその検証と見直しに向けての議論が進められています。まずは、5月に党からの提言、そして、6月に新たな食料・農業・農村政策の展開方向を取りまとめることとなっており、このような重要な議論に私も参議院議員として参加できることは、大変うれしいことではありますが、同時に責任の重さも痛感しております。

様々な課題、ポイントがありますが、一つ申し上げられるのは、これらの議論を通じて生産者の皆さんはもちろんですが、消費者の皆さん、国民の皆さんお一人お一人に、「水」と「土」、そして食料、農業、農村について理解を深めていただき、自分事としてとらえていただく機会にしていけないといけないということだと思います。私も私の立場から情報発信に努めたいと思っておりますし、皆さんもそれぞれをお立場からよろしく願います。

皆さん、近くにお越しの際には、ご遠慮なく参議院議員会館610号室の事務所にお立ち寄りいただき、色々ご意見をいただければと思います。皆さんのご健勝、ご活躍をお祈りいたします。



参議院予算委員会での質疑(令和5年3月27日)



神戸大学での座談会(令和5年1月19日)

会員からの近況報告

野々村 圭造

平成11年卒業、平成13年博士前期課程修了
経済協力開発機構(OECD) 起業・中小企業・都市・地域センター

私は阪神大震災の直後に神戸大学に入学し、修士課程を経て農林水産省に入省しました。在学中は田中勉先生の研究室に所属し浸透破壊実験に取り組んでいました。夜を徹した実験を年間5回ほど実施し、最長で土曜の朝10時に開始して日曜の午後3時まで取り組んだのは良い思い出であるとともに、実験数日前からウキウキする田中先生に研究者の在るべき姿を学びました。入省後は本省、地方、海外と幅広く経験し、特に九州の現場で諫早湾干拓事業、本省ではストックマネジメント事業の新規制度と、土地改良事業の光と影の双方を経験してきました。

現在はパリのOECDに2021年9月から派遣され、農村政策部局に所属しております。貿易に関連した農業は利害対立を招きやすいこともあり、OECDでは農村政策の議論から農業は意図的に切り離されております。そのため、OECDの農村に関する議論には土地から生産物が得られるという世界観が欠如しております。土地改良出身の当方としては、この世界観をOECDでの農村政策の議論に定着させることを目下の課題としております。

さて、当地は美食の国といわれますが、フランス人は味覚が発達していないと思わされる局面が多く、レストランも似たようなメニューばかりで多様

性に欠けており、フランス料理とはグルメという名前のエンタメだと解釈するようになりました。また、フランスの地方都市もどこも似たような感じで観光も今ひとつ迫力に欠けます。しかし、無駄な努力を徹底して省くこの国の合理性は、コスト度外視で満点を目指す風潮のわが国からすると瞠目に値します。この国の真の強みは表面的な華やかさではなく、狡猾ともいえる国民性にあると感じる昨今です。



近所の柔道クラブでOECDの同僚と



OECD本部(通称:シャトー)

会員からの近況報告

高見 美和子

平成18年卒業
近畿農政局東条川二期農業水利事業所

現在、兵庫県加東市にある東条川二期農業水利事業所（酒米「山田錦」の一大産地；かん排事業（耐震一体型・併せ行うため池））で勤務しており、予算管理の他、工事監督は13年ぶりなので若手を指導する立場ながら自分が勉強になることの方が多く、平日は育児放棄して仕事漬けの毎日です。



橋脚基礎部底版補強



背割堤さくらまつり

また“国営の持つ時間的空間的な場を最大限活用”という命のもと、神戸大学には事業所のホームドクター的な役割をお願いしつつ、こちらは国造施設等を研究のフィールドとして提供できるよう連携のあり方を模索しているところです。

最後に河端先生ご退官おめでとうございます。学生時のみならず、近畿農政局他においても多方面にわたりご指導頂きましてありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。お体を大切に、落ち着かれましたらBBQやりましょう。

喜田 直也

令和3年卒業 兵庫県加古川流域土地改良事務所

私は、令和3年に大学を卒業し、兵庫県へ入庁しました。現在は北播磨県民局の加古川流域土地改良事務所に所属し、主にため池の改修工事を担当しています。思い返せば学生時代には播磨地域のため池の貯留効果の検証に取り組んでいたこともあり、何か縁を感じております。



草津温泉の湯畑にて

令和4年度に担当していたため池の工事ではICT技術を活用した施工が導入され、ドローンによる3次元測量やセンサーを用いた施工機械のコントロールなど、従来の手法とは異なることも多く、それへの対応に上司や先輩方のお力をお借りしながら取り組んでいます。

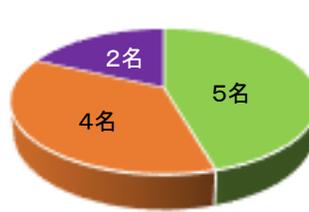
またプライベートにおいては、私の趣味の一つが鉄道旅行（いわゆる乗り鉄）でして、休みを見つけては各地に旅行しております。もう3年になりますコロナ禍にあっても一人旅ではさほど影響はないだろうと旅行をしており、旅先での混雑も少なく旅行支援などのおかげで費用も抑えられることからひそかに喜んでいました。ですが、最近は旅行する方が増えて賑わいが戻って良かったと思う一方、少し残念な思いもある今日この頃です。

大学からのお便り

令和4年度卒業生・修了生の就職状況

就職先 大阪府、カルビー(株)、神戸大学、JR西日本、農林水産省(2名)、兵庫県(2名)、福井県、山口大学、(株)ゆうちょ銀行

社会人ドクター タキロンシーアイシビル(株)



院生(11名)



学部生(13名)

■ 民間企業・法人 ■ 公務員 ■ 進学

新たな教員の体制がスタート

河端俊典先生が令和5年3月末で農学研究科教員として定年を迎えられましたが、令和5年度以降も引き続き、理事・副学長の重責を務めておられます。

また、新たに園田悠介先生が土地環境学教育研究分野の助教として着任されました。現在の農業土木系教員は、田中丸教授、多田准教授(水環境学)、澤田准教授、園田助教(土地環境学)、井上教授、鈴木助教(施設環境学)、長野准教授(地域共生計画学)の7名体制となっています。



園田悠介 助教

日本技術者教育認定機構(JABEE)の継続認定が決定

神戸大学農業土木系の「地域環境工学プログラム」は、日本技術者教育認定機構の認定を受けた神戸大学で唯一の教育プログラムです。昨年10月に6年ごとに実施される継続認定の現地審査を受審し、このたび継続認定が決定しました。

JABEEの認定を受けることにより、国際的に通用する技術士(Professional Engineer)として活躍できる教育の提供が可能となり、農業土木学関連の技術業界において、卒業生のさらなる活躍が期待されます。JABEE教育は、同窓会を通じたOB、OGのサポートが重要な要素の一つとなっています。今後とも同プログラムの教育研究へのご支援について、よろしくお願ひします。

学生・教員の受賞 (令和4年度)

※下線は教員

- 神戸大学学生表彰(オリエンテーリング部) 松本萌恵
- 地盤工学会関西支部賞(地盤技術賞) 富田和孝、鈴木麻里子、井上一哉
「砕石副産物から作製した土質系遮水材の液状化強度と施工性に関する一考察」
- 日本雨水資源化システム学会賞(優秀発表賞) 尾下智郁
「機械学習を用いたダムの浸透量推定による健全性評価手法の検討」
- 農業農村工学会京都支部賞(研究奨励賞) 富田和孝
「乾燥材料を添加した砕石脱水ケーキの現場適用性に関する一考察」
- 地盤工学研究発表会(優秀論文発表者賞) 永谷太志
「プレキャストコンクリート板を用いた埋設管路屈曲部のスラスト対策工法に関する水平載荷実験」
- 六篠賞(六篠学術奨励賞) 園田悠介、太田遥子、松本起



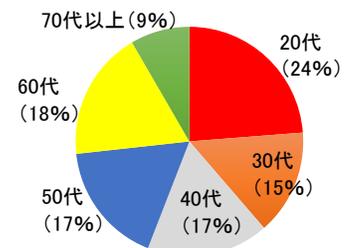
会員名簿更新のお願い

人事異動等に伴って、住所や勤務先など登録情報に変更が生じた場合は、水士会ホームページより各自で更新をお願いします。



会員の状況 (令和5年4月1日現在)

会員数 202名
年代構成 20代 48名、30代 30名、40代 35名、50代 35名、60代 37名、70代以上 17名



編集後記



このたび、近況報告などの投稿を呼びかけたところ、多くの方からお声かけいただき、充実した内容の会報に仕上げることができました。忙しい中にもかかわらず、執筆いただいた皆さまに厚くお礼申し上げます。(岡)